テーマ：素材を知る

品川区立　東中延保育園　４歳児

設定の理由

製作遊び等を通して身近な素材に触れて遊んでいる。日頃からはさみや糊等を使用して自分の思うがままにイメージした物を具現化する事に興味関心をもっている子どもの姿が見られる。その姿から様々な素材がある事を知らせ、遊びを通して素材の特性や効果等について子どもたちの製作遊びへの興味関心を深めるため。

活動①～様々な素材を使って自由に表現する～

ねらい：遊びの中で素材の特性を試行錯誤しながら気付く。

用意した環境

〇準備したもの　製作ワゴン（水性ペン５セット、紙の棒、輪ゴム小さい画用紙、京花紙、コピー用紙、リボン、マスキングテープ折り紙、お面の帯、型抜きした画用紙、丸シール、お絵かきシートスズランテープ、養生テープ、布ガムテープ、短く切ったビニールテープ）空き箱、小さく切った段ボール、ハロウィンに関する絵本くれよん、「黒猫・おばけ・ジャックオランタン」の形に切った大小の画用紙、はさみ、セロハンテープ

活動内容

・ハロウィンの絵本の見た後、好きな素材を選んで製作をする。

子どもたちの様子

・キャンディーに似せようとティッシュを丸めたり、ねじってみたり、ティッシュ箱の絵柄を切って貼ったりなど素材を組み合わせて自分なりのイメージを具現化しようとしていた。
・カップとカップをくっつけるのに、テープを２枚縦に貼るとすぐに取れてしまう。テープの枚数や長さ、縦・横に貼るなども試行錯誤する姿が見られた。
・こうしたらどうなる？と想像した事を試し、思うようにいかない時には友達を見てまねたり保育者に聞いたりして試していた。

保育者の振り返りと気づき

・様々な保育者の視点から子どもたちの試行錯誤する姿を共有することができ、こんな呟きがあったのか、もっとこういう素材を用意していくと良いのでは？など、子どもの思いに寄り添って、わくわくする気持ちを高める保育をするためのアイディアを出し合えた。
・どの様な声かけを行うとどんな反応があったのか、また子どもなりの気付きに繋がったかなど協議を行うと、質の高い保育を深めていく事ができると考えた。

活動②～様々な素材を使って自由に表現する～

ねらい：素材や道具を選び、自分の作りたい物を作ることを楽しむ。

用意した環境

〇準備したもの　製作ワゴン（上記参照）
空き箱、色鉛筆、紙テープ様々な形に切ったフェルト、波板段ボール、
トイレットペーパーの芯、はさみ、じゃばら折りした京花紙
セロハンテープ、星やハートの形の塗り絵

活動内容

・新しい素材を増やし、素材はどのような感触がするのか、何に見えてくるかなど保育者が投げかけた後に製作活動をする。

子どもたちの様子

・どんぐりを接着する際、ボンドを塗る場所や素材によって指先で量を調節しながら塗っていた。
・フェルトを丸めて止めようと、テープを長くしてみたり、丸めてみたりと試行錯誤を繰り返していた。またテープ同士がくっつかない長さに切りフェルトを付けていた。
・様々な素材を組み合わせてラーメンに見立て、箸を作るなど遊びに必要な物をわくわくしながら生み出していた。

保育者の振り返りと気づき

・子どもの心情、試行錯誤する姿、本児なりの気付き、工夫など丁寧に観察する事ができた。また子どもたち自身も生活の中で新しい発見をしたり、「こうやってみよう」と試行錯誤したり達成感や満足感を十分に味わいながら、わくわく感をもって取り組めていた。
・初めての素材を提供する時の方法なども色々な案を出し合う事が出来た。今後の保育の環境設定や連続性がある保育に繋げていく。

活動③～様々な素材を使って自由に表現する～

ねらい：広い環境の中で、思う存分素材の特性に
気付きながら作ることを楽しむ。

用意した環境

〇準備したもの　製作ワゴン（上記参照）
カラーポリ袋、フェルト、星やハートの形をした塗り絵
毛糸、油性ペン、はさみ、ホログラムテープ、
セロハンテープ、

活動内容

・ホールで衣装作りをする。
・自分で好きな素材を選び、テーブルや床など
　子どもが好きな場で製作に取り組む。

子どもたちの様子

・テーブルだと横でしか置けないので自分で考えて、広い床にポリ袋を広げて取り組んでいた。
・衣装をいざ着てみるとリボンのほとんどがうまくつかず取れてしまったため、リボンの上から更にテープで貼り直すなど何度も失敗しながら素材の特性に気付き、工夫する姿が見られた。
・スカート、ティアラ、ステッキなど必要な素材を選び作っていた。
完成した衣装を着て、プリンセスになりきって曲に合わせて踊ったりしていた。

保育者の振り返りと気づき

・自分でイメージしたものを表現する方法が子どもたちの中から沸き上がり形になっていた。日頃の子どもの姿を捉え、様々な素材に触れる経験を大切にする事も質の高い保育に繋がると考えた。
・ホールをアトリエとして活用する事で、素材を広げて製作に取り組むなど、自ら場作りを行う様子が見られた。観察者の観点や援助、素材の種類や環境設定のアイデアなどを協議する事で、更に子どもたちがわくわく感を得ながら探求する活動へ繋げていく事ができると考えた。

活動④～様々な素材を使って自由に表現する～

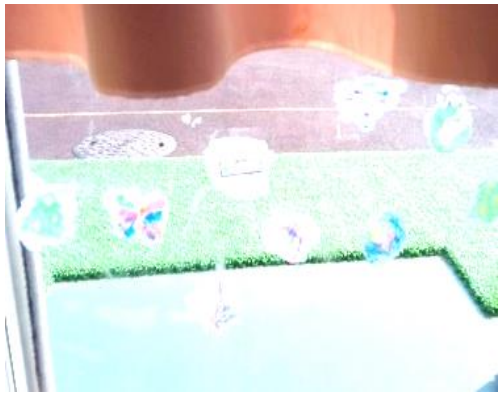
ねらい：新しい素材に触れ、
自分のイメージを形にすることを楽しむ。

用意した環境

〇準備したもの　製作ワゴン（上記参照）
フェルト、空き箱、小さく切った段ボール、梱包材、透明カップ
小さく切った発泡スチロール、紙粘土、粘土板、粘土の型抜き
ビーズ、お弁当カップ、スライム（洗濯のり、ホウ砂、食紅、）
絵の具、筆、バケツ、ボンド、綿

活動内容

- いろいろな素材を設定し、前半は主に紙粘土遊び、
  後半はスライム遊びとボンドアートを行う。
- 身近にある様々な素材を組み合わせて遊ぶ。



子どもたちの様子

- 紙粘土で「マシュマロ」を作り、紙の棒に付けて「マシュマロだよ」と言っていたが、茶色のペンで紙粘土に色を塗って「焼きマシュマロ」みたいと自分の経験した事や知っている事を再現し、表現する姿が見られた。
- 完成したスライムの正しい色の名前が分からなくても、「〇〇の色みたい」などと子どもたちなりに身近にある物で色を例えて表現していた。
- ボンドアートで完成した作品を窓に貼り、太陽の光によって色の見え方の違いに気付いていた

保育者の振り返りと気づき

- 保育者は無意識のうちに“これを提示したらこれを作るであろう”という固定概念をもってしまいがちであるが、子どもは素材を手に取った瞬間から「これで何ができるか」と試して思いのままに表現しようとしていた。
- 子ども達が主体的に遊ぶ環境を作るだけでなく、遊びが次々と変化していく中で子どもの気付きや呟きを受け止めることが大切で、素材や提示するタイミングを見極めながら保育を行っていきたい。